

19 年度 Q2 決算説明会 質疑応答要約

Q) 産業機器の売上はほぼボトムというところか。受注についてはどうか？

A) 産業機器は下期からの回復を見込んでいたが、足元の状況はかなり厳しい状況が続いている。下期の売上としては、上期の水準が目標だが、若干下まわってもおかしくない。なお Q4 からは少し回復する前提となっているため、未達リスクもあるものの、全社に与える利益影響は、それほど大きなものではないと見ている。産業機器の受注については、足元では変化の兆しは感じられない。受注水準は 4-6 月を少し下回る水準だが、さらに底を抜けていく状況ではないのかなと見ている。

Q) P&S 事業について、事務機の各社とも、欧州が不調で下方修正している。

欧州や中国での需要減の影響はどうか。

A) 中国については、実績でも数字が落ちている。年間の見通しも、中国の減速感を考慮して落としている。欧州は堅調に推移しており、景気減速による影響はここまでのところ感じていない。

Q) 第 2 四半期決算での P&S 事業の増益の理由をどのようにとらえればよいのか？

A) 本体のミックス改善や、消耗品が堅調に推移したことに加え、経費の未消化などがあげられる。製品でも、モノクロでは政策的に採算性の悪いスーパーローエンドの販売数量を絞っているなど、収益性の改善に持続的に取り組んでおり、それらが数字にあらわれている部分もある。

Q) P&S 事業の下期の利益見通しが弱いのではないか。上期では Q1 も Q2 もミックスの要因で利益が上振れている。下期で為替がマイナス 25 億くらいの減益要因となっても、ミックスが上期と比較して、劇的に悪化しなければ、下期の利益がここまで落ちることはないのではないか。

A) 上期と比べて、下期は本体の販売強化により、ミックスが悪化すると見ている。加えて、費用についても、上期の未消化の分を下期にスライドさせている。あとは特殊要因として、米中貿易摩擦による追加関税の影響を織り込んでいる。これらにより、上期と比較して下期のほうが、収益性が低下する見込みとしている。

以上